



KPUNews



理事長就任にあたって

京都薬科大学理事長 田村 正昭（昭和32年卒）

滝野前理事長の後任として、5月30日から理事長に就任致しました。微力ではありますが、本学発展のため万全を期す所存です。皆様の絶大なるご支援と、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

私は、1957年に本学を卒業後、製薬企業に42年間勤務し代表取締役副社長の任期を終え、相談役をしておりました時に、滝野前理事長からの命を受け、理事として大学運営に携わるようになりましたのが、2002年6月のことです。「歳月流るる如し」と申しますが、理事に就任後、常任理事を経て2007年9月から2008年6月まで常務理事を担当し、あっという間に2期6年を経過し現在に至っております。

2006年10月の常任理事会で、滝野前理事長から中期計画の立案要請がありました。学校教育については、門外漢な私ですが、長らく財界に身を置いてきた者として学校運営に関し、外部の人間でなければ気づかないこともあるはずだ、何か役に立てる事があるはずとの思いから、武田委員長の下で、副委員

長を引き受けました。

中期計画立案にあたって、現場を知ることと、本学に集う教職員の方の意識調査を兼ねて、全教職員の皆様と面談させていただきました。その節は、貴重な時間を割いていただき、ご協力いただきました皆様方に改めてお礼申し上げます。この時に学ばせていただきましたことが、現在の私の精神面の大きな支えとなり、貴重な財産ともなっております。

取り組み早々、企業と大学との文化の差に戸惑いを覚え、カルチャーショックを受けることも多く、紆余曲折はありましたが、教学関係の座長として、纏め役をお願いしました後藤教授をはじめ、多くの教職員の皆様方のご協力により、何とか、期日内に滝野理事長に、中期計画案を答申することが出来ました。

中期計画立案会議では、各分野の壁を越えての課題抽出や改善提案など、夜遅くまで白熱した議論が戦わされました。この議論を通じまして、各先生方

CONTENTS

理事長就任にあたって 理事長 田村正昭	1～2
新2号館・躬行館（仮称）の建設に向かって	
学 長 西野武志	2～3
昇任のご挨拶	3～4
特集 情報を活用しよう	5～8
卒業生からのメッセージ	8
2007年度授業評価集計結果の報告	9
2008年度試験関係日程	10
総合薬学研究・総合薬学演習 分野説明会	11
第5回 京都薬科大学-	
京都府病院薬剤師会連携ワークショップ開催	12
京都薬科大学-	
京都府病院薬剤師会合同ワークショップ開催	13

平成19年度決算について	14～15
第93回薬剤師国家試験の結果と	
平成20年度の対策について	16
平成20年度科学研究費補助金採択状況	17
Library News	18～19
2009年度入学試験概要	20～21
受賞・発表会	21
第2回 Collaboration Meeting	
on Gastrointestinal Pharmacologyに参加して	22～23
クラブだより	23
お知らせ	23～24
京薬会だより	24

の本学に対する熱い思いを感じることが出来たこと、そしてお互いの連帯感が強い絆で結ばれたことは、私にとって生涯忘れることのできないエポック・メイキングな出来事でした。

この熱き思いに報いるため、私に与えられた任務遂行に全力を挙げて取り組むことを全ての関係各位に誓います。

すでにご案内の通り、学校存立の厳しい社会環境は続いております。2007年度のデータによりますと、私立大学の40%が定員を割り込んでいます。

今まで、例外的に恵まれた存在として見られていた薬科大学におきましても、日本私立薬科大学協会が公表しました2008年度の資料によりますと、協会に加盟している55の私立薬科大学中18大学が入学定員割れを起こしているのが実態です。

薬科大学も生き残りを賭けた正に「危急存亡の秋」と言っても過言ではありません。今や、各大学とも聖域なき改革に取り組んでおります。伝統に胡坐をかいては、生き残ることが出来ないことを自覚しなければなりません。

私は、先程来縷々述べてきました中期計画「躬行プラン」のPDCAを円滑に推進することに軸足を置き、更に西野学長との連携を深め、「研究の質の向上」と、「教育の質の向上」に向けての取り組みを全面的に支援して参る所存です。

学生の皆さんには、学生生活を快適な環境下で送って貰うべく施設の整備に取り組んでいます。しかし、京都市の建築基準が厳しくなり、新2号館の建設が遅れており、何かと不便を掛けていることを申

し訳なく思っています。

また、新2号館建設にからんで8号館の一部取り壊しなどの工事が始まります。工事にあたっては、騒音を少なくするなど細心の注意を払って進めますが、迷惑を掛けることをお許し下さい。

なお、クラブ活動にも可能な限り支援して参りますので、青春を謳歌して貰いたいと思いますが、一方で、皆さんが本学を選ばれた動機について、今一度原点に立ち返って問い直して下さい。

本学で薬学を学び、将来は社会に出て「薬のプロフェッショナル」として、人命に係わる医療を担う崇高な職に就かれることになります。

社会が、薬科大学に求めているのは、資質の高い薬剤師・薬学研究者の養成にあります。特に、医療人としての全人教育についての要請が高まっております。このことは、薬学の専門知識を身につけるのは当然ですが、加えて、知識・技能に偏することなく、知・情・意の調和の取れた円満な人間を育て欲しいと期待されているのです。

難しいことは言いません、社会人としてのマナー、ルールを守ることから始めようではありませんか。私は、毎日自転車通勤していますが、こちらが挨拶しても返事がない学生が多いのには悲しい思いをしています。

挨拶にはじまる礼儀作法など、社会人として恥ずかしくない習慣を身につけて頂くことを熱望します。

明るく、活力のある学校運営に取り組みますのでご協力をお願いし、就任の挨拶と致します。

躬行館の建設に向かって

学長 西野 武志



京都薬科大学では、創立120周年記念事業として、本校地の再整備に着手し、本部棟として薬大のシンボルとなる「愛学館」を2005年に竣工いたしました。

また、2006年4月より薬学教育6年制を開設し、臨床実習を充実するための新たな施設として「臨床薬学教育研究センター」を2008年3月に竣工いたしました。

した。

本年の秋に着工する「躬行館」は、愛学館建設計画時にキャンパス全体マスタープランで計画していた建物であり、薬学教育6年制教育がスタートし、薬剤師の社会的地位向上が期待される時代に、今後、本学がさらに発展し、医療の多くの分野で活躍できる有為な人材を育成するために必要な機能を確保（講義室・セミナー室・実習室・研究室・図書館・食堂等）するために、本校地テニスコート跡地・8号館一部撤去跡地に建設するものであります。

計画にあたり、以下の3点を配慮して建設計画を進めてまいります。

①キャンパス全体との調和

キャンパスを代表する「愛学館」のデザインを意識した計画とし、キャンパス全体との調和を図り、南側道路際の「区民誇りの木」に選定されているクスノキ群の育成に影響を与えない計画とします。

②周辺景観への配慮

南側の講義棟、北側の図書館棟の2棟に建物を分けることで建物高さを20m以下に抑え、周辺景観に配慮した建物とします。屋上に設ける設備機器は、勾配を持った目隠し屋根・壁の内側に配置します。

③安全で使いやすい施設構成

多くの学生が集まる建物であることに配慮し、安全でわかりやすく、使いやすい建物とします。各講義室は、緩やかで割合広い階段で学生・教職員の動線処理が可能な配置とします。研究室は、4・5階の高層階にまとめ、セキュリティ管理が行える計画とします。

建設概要

建築物名称：京都薬科大学 躬行館

主要用途：大学

（講義・実習・研究室・図書館・学生食堂）

工事種別：新築

建築面積：2,650㎡

延床面積：11,450㎡

（図書館・大講義室：3,600㎡

講義室・実習室・研究室・学生食堂：7,850㎡）

最高高さ：北棟15.5m 南棟20.0m

完成予定：2010年3月

昇任のご挨拶



創薬科学系 機能分子化学分野

教授 山下 正行

本年4月1日付けで教授に昇任させていただきました。私は、京都薬科大学製薬化学科を卒業後、一旦製薬会社へ就職しましたが退職し、大阪大学大学院薬学研究課博士前期課程に入学しました。博士後期課程を修了し薬学博士の学位を取得した後、米国テキサス大学オースチン校化学科S. F. Martin教授研究室の博士研究員となりました。留学中、化学教室（現 機能分子化学分野）の教授に昇任された太田俊作先生（現 名誉教授）からお声がかかり、1991年助手として本学に着任しました。それ以来、太田先生のもと、主に1、2年次生の化学、有機化学の講義、実習に携わってまいりました。

高校を卒業して間もない1年次生と接していると、“化学（有機化学）は暗記科目である”だから、大学における勉強法も“ただ単に丸暗記すればいい”と信じている人が多いように感じられます。しかしながら、高校時代に比べその質と量の違いに戸惑い、化学が好きで入学してきたのに化学が嫌いになる人が少なからずいます。単なる丸暗記では忘れるのが早いことを、もうすでに経験している人が多いと思います。試験が済んだその瞬間、丸暗記したことは忘れてしまう。思い出そうとしてもまったく思い出せない。しかし、じっくり理解しながら勉強したことは、なかなか忘れないし忘れたとしても少し勉強し直せばすぐ思い出すことができます。学生の皆さんには遅かれ早かれCBTや薬剤師国家試験が待っています。たとえ1回勉強して単位が取れたとしても、ほとんどの専門科目はまたCBTや国家試験の前には勉強し直さなければなりません。無駄なく効率よく勉強するには、今からでも遅くはありませんので、“単に丸暗記する”勉強法から“理解して覚える”勉強法に切り替えてください。これは、有機化学に限った事ではありません。すべての科目に当てはまることであると私は考えています。

医療スタッフには様々な職種がありますが、その中で化学をベースにしているのは薬剤師だけであり、化学的な考えに基づいたアプローチができることが薬学の強みとなります。大学時代に大いに化学を楽しんで自分の武器にしてください。

ここ最近感じていたことを皆さんに伝える機会がなかったので、ここに書かせてもらいました。学生

さんと接する気持ちは今までと変わりませんので、今後ともよろしくお願いいたします。



**病態薬科学系
病態生化学分野**

教授 秋葉 聡

本年4月より佐藤隆司先生の後任として病態生化学分野の教授に昇任させていただきました。私は本学大学院博士課程を修了後、1991年度に本学 生化学Ⅱ教室（現 病態生化学分野）の助手として採用いただき、実習や研究に携わる機会を得ました。1998年度以降は講師・准教授として4年制講義における病態生化学を担当してまいりました。

6年制におきましては、薬剤師が有効かつ安全な薬物療法を提供するために必須となる薬物治療学を、薬物治療学分野ならびに臨床薬理学分野の先生方と分担して講義する予定で、私は現在の研究内容にも関連した代謝性疾患（メタボリックシンドローム、高脂血症、糖尿病）をはじめ、血液疾患等を担当します。薬物治療学に限らずどの科目でも膨大な知識の理解が要求されますが、例えば、糖尿病の原因とその治療薬やその作用部位（治療標的分子）を覚えるだけの知識の記憶と、知識の理解とは異なると考えます。書籍や講義等から文章で得た知識の幾つかをまとめて絵や図で表現し他者に伝達できることが、その知識を理解したこととの証の1つとなるのではと思います。私は講義では必要な知識の全体像をイメージとして捉えてもらえるように図を多用しますが、これはある意味、学生の皆さんから「得た知識を自分で絵にする機会」を奪っているのかもしれませんが、学生の皆さんには、どんな科目でも教科書や教員から得た図表だけに頼らず、得た知識を将来引っぱりだせるような確実なものにするためにも、学んだことを自分自身で絵に描き直すことをお勧めします。

研究では、助手の頃は起炎症性脂質メディエーターの産生酵素の活性化機構の解明に取り組んでおりましたが、現在は、その産生酵素が肥満、脂肪肝、粥状動脈硬化症の治療標的分子となる可能性を検討しており、さらにこれらの疾患における新規標的分子の探索を行っております。当たり前のことですが、研究上でも、その成果を他者に伝え理解を得ることはとても大切なことです。3年次後期に、どの分野に所属しても実験手法の習得のみならず成果発表に関わる技能についても重視していただければと思います。

他者に知識や考えを分かりやすく伝える能力は、薬剤師、創薬研究者のいずれにとっても必要不可欠なものですから、学生の皆さんにはその向上にも配慮されることを願っています。このような学生諸君への願いを以て昇任のご挨拶とさせていただくとともに、皆様からのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



**病態薬科学系
薬物治療学分野**

准教授 加藤 伸一

本年4月1日付けで薬物治療学分野の准教授に昇進させていただきました。私は1992年に本学博士前期（修士）課程を修了後、製薬企業で研究員として勤務し、1995年に本学に現在の薬物治療学分野（当時、薬物治療学教室）の助手として戻って参りました。以来、早12年の月日が経ち、本学ならびに薬学教育を取り巻く環境は大きく様変わりしております。先日、私が学生時代に多くの時間を過ごした大学ホール（通称、ナビオと呼ばれていました）が新2号館の建設準備に伴い取り壊されました。このように古いものが姿を消し、代わって新しいものが出来上がっていくという変化は大変早く、現在の愛学館が建設される前にあった旧1号館や学生食堂などの記憶は既に消えつつあります。薬学教育の変化も同様に待たなしにやってきます。薬学6年制教育は今まさに始まったところですが、これもあつという間にごく当たり前なものになっていくのかもしれませんが、このような時代の変化に残されることのないように、これまでに培ってきた多くの知識、経験などをうまく新しいものに取り入れながら、さらに発展させていくことが重要ではないかと思います。私自身も、新しい薬学教育、新しい京都薬科大学がより良い方向へさらに発展していけるよう、微力ではありますが貢献できるよう努力していく所存です。今後とも、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

特 集 情 報 を 活 用 し よ う

万年筆と原稿用紙で論文を書いていたのはいつ頃までのことであったのか。ある時からワープロ専用機（今の学生諸君は実物を見たこともないだろうが）を利用するようになり、また直ぐにパソコンのワープロソフトを利用して論文を書くようになった。時を同じくしてインターネットを介して様々な情報を入手し、授業の資料を作ったり、また論文の資料を検索するようになった。そうこうする内に学内LANが完成し、ほぼ全ての学内外の事務的文書が電子化されてやり取りされるようになった。今やパソコンとインターネット無しでは、大学の研究と教育は成り立たない。それどころか、公的だろうが私的だろうが、社会生活が営めない電腦社会に私たちは生きている。真に便利で快適な社会である、しかし同時に情報の渦に苛まれまた悪意あるデマが瞬時に拡大する凶悪な社会でもある。だが、省エネを理想としつつも、私たちは、隠者にでもならない限り、この電腦社会から逃れることの出来ない状況に投げ込まれている。この状況に有効に対処し自らを守り生きていくために、情報教育の重要性があり、またデータベースの活用法がある。お二人の先生にその辺りの事情について語って頂いた。

本学の情報教育について

情報処理教育研究センター 准教授 深田 守

本学では、1年次生向けに「ITA」、「ITB」という情報教育の授業科目がありますが、本学の学部での情報教育の歴史を遡りますと、1995年度に自由科目として「パソコンセミナー」が10台のパソコンを使用して開講されたのが始まりだと思えます。

開講初日に、パソコンセミナーの定員が10名なのに、50名近く希望者が来たので、抽選で40名を取って、火水木金と週4日セミナーを行うようにしました。今とちがって、1年次生の授業日程にゆとりがあったのでそんなことができたのでしょう。

それで学内でも、情報教育の必要性に対する認識が高まり、1998年度には、旧5号館2階に「情報処理センター」が設置されて、「コンピュータ入門」

（前期）が開講されました。選択科目でしたが、1年次生の9割近くほどの受講者がおり、次年度からは9割を超えるようになりました。



演習室授業風景

現在は、前期・後期にわたる必須科目として、「Word」、「Excel」、「PowerPoint」、「ChemDraw」、「情

報検索」、「電子メール」、「情報セキュリティ」、「ホームページ作成」などのリテラシー教育の他に、「ハードウェアの基礎」、「ネットワークの基礎」などITのしくみを理解するための項目も取り入れており、かなり充実した内容になっているものと思っています。授業の進め方としては、ウェブ上に動画などのマルチメディア教材を配置して、それに従って学生がパソコンを操作していく形式をとっています。

また4年前に、インターネットの活用事例として、仙台の東北薬科大学とネットで結んだ合同遠隔授業を取り入れたところ、「1000kmも離れているのに他大学の授業の様子をリアルタイムで見ることができ、楽しい時間を共有できた」、「同じ職業（薬剤師）を目指すもの同士で意見を交換することで、大きな刺激を受けた」などと、両大学の学生にかなり好評でした。



合同遠隔授業でのプラズマディスプレイ画面

翌年には、特別養護老人介護施設を運営している

寺院（西教寺、大津市）の僧侶に講演をお願いして、3地点を結んだ遠隔合同授業を行いました。講演後、学生に質問をさせたところ、「お坊さんは1週間に何回位舞妓さんを見ますか？」という質問がありました。祇園ではお坊さんをよく見かけるといような噂が仙台の学生まで伝わっているわけではないでしょうし、深い意味はなかったのですが、僧侶は絶句してしまわれました。次に本学の女子学生が「将来、そちらの介護施設で私が薬剤師として働きたいと思ったら、現在、どのような勉強を心がけたらよいのでしょうか？」という質問をして、僧侶は「それはすばらしい質問ですね」と喜んで答えてくれて、私もさすが京薬の学生と感心しました。

それから、次の年度には、日本薬剤師会中央薬事情報センターの協力を得て3地点の遠隔合同授業を行

いました。「日本薬剤師会の電話薬相談の紹介」など、患者や医療関係者との生の交流情報が多く盛り込まれた講演があり、東北薬科大学の学生の感想文に「講演してくれた薬剤師の先生の話聞いて、患者のことを一番に考えられる薬剤師になりたいと思った」という文章もあり、こういう取り組みは今後薬学を学んでいくためのモチベーションの向上に寄与しているものと考えています。

最後になりましたが、今年3月、教育研究総合センター1階を改装して、4室からなる新演習室を設置しました。計100台のパソコンがあり、薬学共用試験CBTや少人数の基礎演習、オープン利用などに使われます。オープン利用のパソコン台数も増えたので、学生、教職員の皆様に活用して頂きたいと思います。

本学で利用できるデータベースについて

図書課長 隅田 芳男

目的のために一定のルールに従って整理し、必要なときに取り出せるようにまとめた情報の集合のことを「データベース」と呼びます。

本学で利用できるデータベースは、日本語で利用できる朝日新聞記事データベース、日経BP記事検索サービス、Super Review新薬臨床展望、iyakuSearch、Genii 学術コンテンツポータル、JDream II、英語で利用できるxPharm、JCRWeb、Scopus、PubMed、SciFinder Scholorがあります。

今回は日本語で利用できるデータベースについて紹介します。

1. 朝日新聞記事データベース「聞蔵」

<http://libopac.kyoto-phu.ac.jp/dna.html>

「聞蔵」は1984年以降の朝日新聞記事が検索可能で、地域版、AERA、週刊朝日、知恵蔵も収録されています。また、34,500件の人物データベースも利用することが可能です。

朝日新聞・AERA・週刊朝日 記事検索

朝日新聞オンライン 記事データベース 「聞蔵」(きくそう)

シンプル検索 使い方? 利用規定 ログアウト asahi.com

シンプル検索 パワフル検索 知恵蔵検索 人物DB検索

→ キーワード 検索実行 クリア

検索オプション

3ヶ月 6ヶ月 1年 全期間

発行日 年 月 日 から 年 月 日

→ リスト表示

件数 20

順序 新しい順 古い順

聞蔵 Digital News Archives及びその収録記事等は、日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。著作権者の許諾を得ることなく著作物を利用できる範囲を超えて複製、転載、改変、複製、転載、配布、販売等を行うことはできません。その他、朝日新聞社及び第三者の権利を侵害する一切の利用をお断りします。→「聞蔵 著作権について」はこちら。

Copyright 2008 The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.

2. 日経BP記事検索サービス

<http://bizboard.nikkeibp.co.jp/daigaku/>

日経BP記事検索サービスは日経BP社が発行する日経ビジネス、日経パソコン、日経メディカル、日経ドラッグインフォメーションなど約40誌の記事が掲載されています。

日経BP記事検索サービス

ビジネススキルを磨け!

人気記事ランキング

1. 日経BP社が発行する日経ビジネス、日経パソコン、日経メディカル、日経ドラッグインフォメーションなど約40誌の記事が掲載されています。

2. 日経BP社が発行する日経ビジネス、日経パソコン、日経メディカル、日経ドラッグインフォメーションなど約40誌の記事が掲載されています。

3. 日経BP社が発行する日経ビジネス、日経パソコン、日経メディカル、日経ドラッグインフォメーションなど約40誌の記事が掲載されています。

4. 日経BP社が発行する日経ビジネス、日経パソコン、日経メディカル、日経ドラッグインフォメーションなど約40誌の記事が掲載されています。

5. 日経BP社が発行する日経ビジネス、日経パソコン、日経メディカル、日経ドラッグインフォメーションなど約40誌の記事が掲載されています。

6. 日経BP社が発行する日経ビジネス、日経パソコン、日経メディカル、日経ドラッグインフォメーションなど約40誌の記事が掲載されています。

7. 日経BP社が発行する日経ビジネス、日経パソコン、日経メディカル、日経ドラッグインフォメーションなど約40誌の記事が掲載されています。

8. 日経BP社が発行する日経ビジネス、日経パソコン、日経メディカル、日経ドラッグインフォメーションなど約40誌の記事が掲載されています。

9. 日経BP社が発行する日経ビジネス、日経パソコン、日経メディカル、日経ドラッグインフォメーションなど約40誌の記事が掲載されています。

10. 日経BP社が発行する日経ビジネス、日経パソコン、日経メディカル、日経ドラッグインフォメーションなど約40誌の記事が掲載されています。

3. Super Review新薬臨床展望

<https://www.super-review.jp>

Super Review新薬展望は疾患レポートと薬剤レビューから構成され、現在疾患レポートには8疾患が、薬剤レビューには17治療薬が記載されています。



5. Genii 学術コンテンツポータル

<http://ge.nii.ac.jp/genii/jsp/index.jsp>

Genii 学術コンテンツポータルは国立情報学研究所が提供するデータベースで、論文を探すNII論文情報ナビゲータ(CiNii)、本、雑誌を探すWebcatPlus、研究課題、成果を探すKAKEN、分野別専門情報を探すNII-DBRから構成されています。



4. iyakuSearch (医薬品情報データベース)

<http://database.japic.or.jp/nw/index>

iyakuSearchは財団法人日本医薬情報センターが提供する国内発行の医・歯・薬関連雑誌から医薬品についての情報を選択・収録した医薬品情報データベースで、医薬文献情報(336,756件)、学会演題情報(610,200件)、医療用医薬品添付文書情報(13,508件)、一般用医薬品添付文書情報(10,008件)、臨床試験情報(781件)、日本の新薬(441件)、医薬品類似名称検索から構成されています。



6. JDream II

<http://ninsho.jst.go.jp/loginIP.html>

JDream IIは独立行政法人科学技術振興機構(JST)が作成した科学技術や医学・薬学関係の文献情報を手軽に検索できるようにしたデータベースサービスです。JSTの前身である日本科学技術情報センター(JICST)が昭和51年以来提供していた検索専門家向けの「JOIS(コマンド)」と、JSTが平成15年から提供していたエンドユーザ向けの「JDream」を統合し、飛躍的に機能が向上しました。

2008年5月現在、JDream IIの収録件数は、JST75802,196,411件、JSTPlus 20,014,770件、JMEDPlus 4,557,167件です。



利用できるデータベースは下記の表のとおりです。

データベース名	収録情報	収録年代	収録件数*	年間収録件数
		(更新頻度)		
JST7500	科学技術全分野に関する文献情報。世界50数カ国の情報を含む。	1975－1980(更新無し)	約220万件	更新無し
JSTPlus	科学技術(医学を含む)全分野に関する文献情報。世界50数カ国の情報を含む。	1981－(月4回)	約1,994万件	約70万件
JMEDPlus	日本国内発行の資料から医学、薬学、歯科学、看護学、生物科学、獣医学等に関する文献情報を収録。	1981－(月2回)	約453万件	約37万件
JCHEM	化学物質の商品名、治験番号、体系名、化合物辞書番号、CAS登録番号、分子式などの情報。	(月1回)	約256万件	－
Medline	米国国立医学図書館(NLM: National Library of Medicine)が作成・提供する医学およびその関連領域を対象とする文献情報。	1950－(週1回)	約1,678万件	約50万件
JSTChina	中国国内で発行される科学技術資料のうち、JSTが厳選した約770誌に掲載された文献情報。	1981－(月2回)	約17万件	約10万件
JSTPatM	国内発行の公開特許公報(技術情報として)と、科学技術文献情報を同時に検索。	特許:1993－(月1回)	特許:約535万件	特許:約30万件
		文献:1981－(月1回)	文献:約2,283万件	文献:約100万件
医学・薬学予稿集全文データベース	医学・薬学・看護学系学会より許諾を頂いた予稿集の全文をPDF化。検索機能を付与。	1999－(月2回)	記事:約95万件 予稿集:5,343 タイトル	約11～12万件
総収録件数			約4,733万件	－

2008年5月現在

「卒業生からのメッセージ」 町の薬局と地域との係わり



猪奥 真理子 (旧姓：藤原)
昭和60年卒
株式会社 京まち薬局 代表取締役
京まち薬局 管理薬剤師

山科の南部、大宅の地で調剤薬局をオープンして、息つく間もなく3年が経ちました。私は昭和60年に学部卒、主人は52年学部卒54年修士修了(現 微生物・感染制御学分野)です。卒業してからはや20数年、最初の10年は山科駅前の病院に勤務し、後の10年は保険薬局に勤務し、山科に戻ってきました。

今は朝9時に開局し全力疾走、夜8時にはヘトヘトになり玄関のロールカーテンを下ろす毎日です。今日はまちの薬局の業務の一部をご紹介します。

まず一番の業務は処方せん調剤です。受付した一枚の処方せんからその人ごとの調剤を行ないます。お年寄りや身体の不自由な方には分包機で服用時点毎の一包化もします。慣れない電子薬歴を横目に服薬指導をします。服薬カレンダーを作成して飲み忘れを防ぐ工夫が必要な方もあります。ジェネリックの説明はもちろん、今年の4月から後期高齢者医療制度も始まり、私ども開局薬剤師にも保険点数の説明を求められる事が多くなりました。調剤の合間には、地域の方とコミュニケーションをとりながらOTCやサプリメントの相談などを行ないます。

午後からは在宅の患者さん宅に、調剤薬をもって

服薬指導に出掛けます。「訪問薬剤管理指導」や「居宅療養管理指導」の業務です。豊唾のご夫婦、認知症のお年寄り、胃瘻のチューブやバルーンカテーテル・在宅酸素を使用して自宅で療養されている患者さんもおられます。薬局には小さいながらも(約5㎡)、高カロリー輸液の調製や、抗癌剤の調剤のための無菌調剤室・クリーンベンチを備えています。麻薬処方せんもこの1年で倍増し、小さい麻薬金庫はもう手狭です。

2週間に一度は山科区役所で介護認定審査会が開催されます。1合議体5名の専門家が30数名の要介護者の認定審査を行なう作業です。山科では全体で7合議体、1合議体は医療関係者3名(内医師2名)、福祉関係から2名の計5名からなります。私も薬剤師として出席し、医師と各利用者の介護度について議論する緊張の数時間になります。

この6月には京薬の4年次生が学生実務実習に、7月には1年次生が早期体験学習に来てくれます。懐かしい先生方とお話が出来たり、若い学生さんから元気を頂いたり、忙しいけれども楽しい期間です。

最後になりましたが学生の皆さんへ、西野学長が以前お話をされていたように、薬の専門的な知識だけではなく、大学では幅広い一般的な教養・知識やコミュニケーション能力等をしっかり学ばれ、薬剤師として医療の一翼を担っているという責任と誇りを持ちながら、将来ご活躍されることを願っております。

気が向かれましたら、ふらっと覗けたおっちゃんやメタボのおばちゃん、気さくな京薬の卒業生二人が揃っています京まち薬局に是非お立ち寄り下さい。

2007年度授業評価集計結果の報告

教務部長

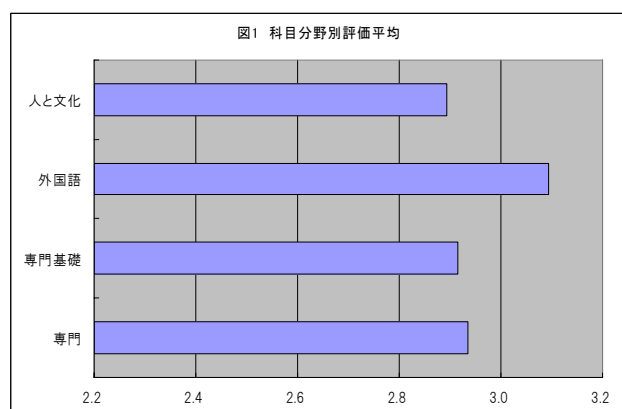
学生による授業評価は授業の改善を目的とし、学期ごとに実施している。授業アンケートは2002年度から実施しており、各学年100名の学生を指名し、記名式で4段階評価を行っている。アンケート対象教員は専任教員および非常勤講師を対象としている。

アンケート用紙の配付と回収及び集計は教務課にて行い、次のとおり全講義科目の4段階評価の集計結果とその解析結果の概要を報告する。授業評価に関する10の設問および総合評価について表1に示した。項目によってばらつきはあるが、昨年度とほぼ同じ評価であった。

表1 設問項目別授業評価の全体平均

設 問	2007年度	2006年度
Q1.話し方が明瞭かつ丁寧に理解しやすかった。	3.0	2.9
Q2.板書が適切で授業の理解に役立った。	2.8	2.8
Q3.テキストやプリントなどの教材が適切に使用されていた。	3.1	3.2
Q4.授業はシラバスに沿って進められた。	3.1	3.1
Q5.よく準備され、熱意が感じられる講義である。	3.1	3.1
Q6.私語や態度の悪い学生に注意するなど、静かに授業が行なわれるように工夫されていた。	2.9	2.9
Q7.授業の進行速度は適切である。	3.0	3.0
Q8.余談やエピソードなど授業に対する関心を高める努力がなされていた。	3.0	2.9
Q9.授業内容の難易度は適切であった。	3.0	3.0
Q10.授業内容によって新しい学習意欲が湧いてきた。	2.8	2.8
Q11.この授業を総合的に評価してください。	3.0	3.0
項目平均	3.0	3.0

授業評価の平均と授業科目分野区分との関係は図1に示されるように外国語の授業が評価された。



次に職制との相関関係では図2に示すように、非常勤講師の評価が他よりやや高く評価された。

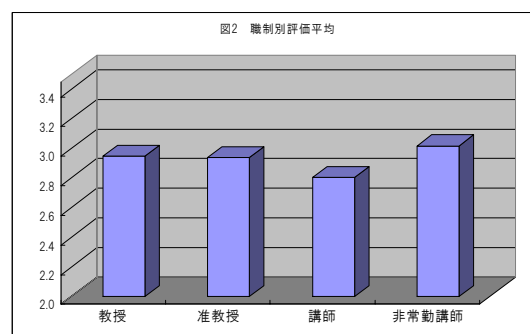
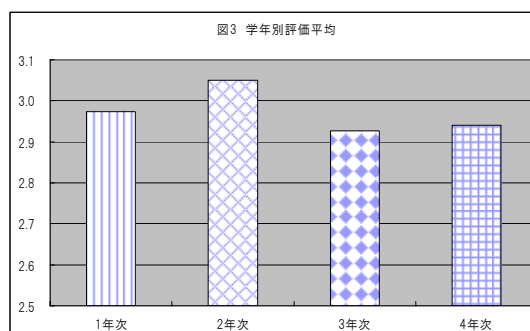


図3の学年別平均は、1・2年次が高い評価となった。



個人別評価の分布は図4に示したとおり、平均値3.0であった。

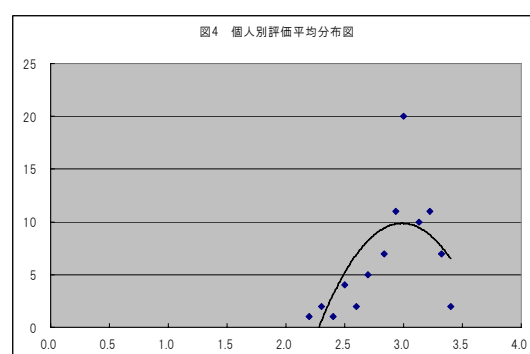
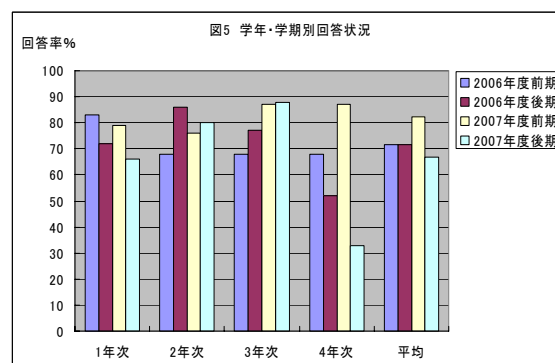


図5に示すように、学年別・学期別の回答状況は、資料受理者の大半にアンケート回答に協力していただき、特に3年次生の回答率が高かった。



最後に今回の授業アンケートに協力してくれた学生の皆さんへ御礼申し上げます。また、評価対象となった教員におかれては、アンケート結果を参考に、更なる授業改善につなげて頂ければ幸いです。

2008年度 試験関係日程

教務課

《試験日程》

シラバスにも一部掲載しているとおり2008年度の試験日程は【表1】のとおりです。

前年次科目および4年次前期科目については、9月の再試験が単位を修得する最後のチャンスです。この試験で不合格の場合は進級・卒業要件を充たすことができなくなってしまうので、特に試験時間を間違ったりしないよう留意して試験に臨んでください。

また、再試験受験手続について、毎年手続が遅れる学生が見受けられます。日程等よく確認しておいてください。

「再試験受験許可書・領収書」については、再試験を受験する際に必要です。手続後、再試験受験まで紛失しないよう大切に保管してください。万が一紛失した場合は、教務課で再発行を受けてください。

当該年度に履修登録した選択科目については、修得するよう努力してください。再試験の受験手続をしなくても構いませんが、再試験手続をしなかった場合は、前年次科目再試験で受験することができなくなるうえ、当該年度中は平均点に算入されることになります。

【表1】

年	試 験	試験期間	合格発表等	手続等
2008	前 期 試 験	7月16日（水）～ 7月25日（金）	8月21日（木）に発表（予定）。	－
	前年次科目再試験	9月 1日（月）～ 9月 4日（木）	(1～3年次) 10月中旬に配付する成績通知書に記載。 (4年次) 卒業査定会まで発表しません。	4月17日（木）・18日（金）
	前期科目再試験	9月 8日（月）～ 9月11日（木）	(1～3年次) 10月中旬に配付する成績通知書に記載。 (4年次) 卒業査定会まで発表しません。	前期試験の合格発表当日と翌日を 「再試験受験願」受付日とします。 受付日（予定）：8/21（木）・22（金）
2009	後 期 試 験	1月13日（火）～ 1月21日（水）	2月5日（木）に発表（予定）。	－
	後期科目再試験	(1～3年次) 2月12日（木）～ 2月19日（木）	査定会まで発表しません。 査定会終了後、3月中旬に配付する成績通知書に記載。	後期試験の合格発表当日と翌日を 「再試験受験願」受付日とします。 受付日（予定）：2/5（木）・6（金）

《成績通知・合格発表》

【表2】の日程で成績通知書を配付します。1～3年次生は学生相談員から4年次生は分野主任から受け取ってください（3年次生の後期は分野主任から受け取るようになります。ただし、分野を選択していない4年制学生は、引き続き「学生相談員」から受け取ってください）。

なお、成績通知書は、必ず配付期間中に受け取るようにしてください。

【表2】

区 分	年 次	配付日程	保証人（父母）への送付
前 期 科 目 試 験	全 学 年	10月10日（金）～ 10月17日（金）	10月下旬
前年次科目再試験 前期科目再試験	1～3年次		
前年次科目再試験 前期科目再試験 薬学特別演習試験	4年次	3月20日（金） （卒業式後配付します）	－
後 期 科 目 試 験 後 期 科 目 再 試 験	1～3年次	3月16日（月）～ 3月31日（火）	4月下旬

総合薬学研究・総合薬学演習 分野説明会

4月7日（月）、8日（火）にかけて、6年制の3年次生向けに総合薬学研究・総合薬学演習のガイダンスおよび分野（研究室）説明会を中央講堂兼体育館で行いました。

総合薬学研究・総合薬学演習は、6年制の3年次後期～6年次前期（4年次後期を除く）にわたって行う卒業研究・演習です。科学的根拠に基づいた問題解決能力の養成を目的とし、薬学・医療に関する高度な専門知識と研究能力を兼ね備えた、社会に大きく貢献できる人材の育成をねらいとしています。

従来の4年制における特別実習・セミナー分属では、訪問期間を設けて各分野（研究室）で学生の皆さんへの説明・対応をしていましたが、制度が変わったため今年は新たな試みとして、中央講堂兼体育館で各分野一堂に会しての合同説明会を企画しました。

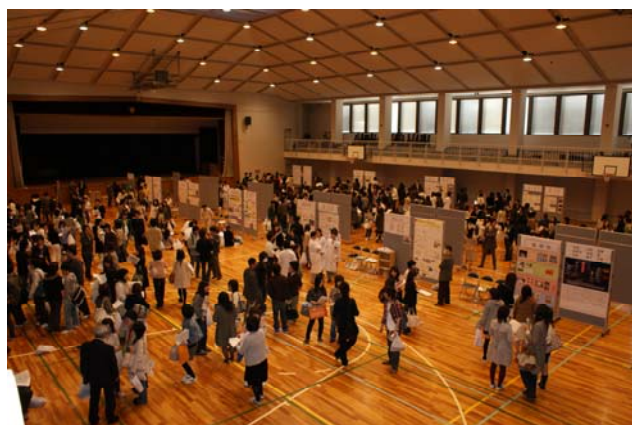
3年次生の皆さんにとっては、長期間所属する分野を選択することになるため、それぞれ自分の興味のある分野をしっかりと見定められるよう、短時間のうちに複数の分野の説明を聞き、比較・検討できることが今回の試みです。

説明会の形式としては、分野ごとにブースを設置し、学生の皆さんが各自興味のあるブースへ集まり、分野教員から約30分の説明が実施されます。それを5回繰り返すので、学生の皆さんは最大で5つの分野の説明を聞くことができました。

各分野それぞれの特徴を生かしたブース出展となっており、参加された学生の皆さんは熱心に説明を聞いていました。また研究・演習内容だけでなく、研究の進め方や研究室の雰囲気を確認するシーンも多く、大変盛況な説明会となりました。

説明をする担当教員の方も熱が入り、「30分×5セットはさすがにきつい」と、途中で他の教員に説明を交代している姿も見受けられました。

来年以降も先生方・学生の皆さん双方にとって実りある分野説明会となりますよう、今後ともご支援、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。



目的の研究室を目指してブースを移動する学生さん



教員から学生の皆さんへの説明にも熱が入ります

オープンキャンパス（予告）

2008年度のオープンキャンパスを下記の日程で行いますので、お近くの受験生や高校生にご案内ください。

詳細につきましては、本学ホームページをご覧ください。入試課にお尋ねください。

夏のオープンキャンパス

〈日時〉 8月2日（土）・8月3日（日）

午前の部 9：30～12：30

午後の部 13：30～16：30

（両日とも、午前、午後の内容は同じ）

〈主な内容〉

大学紹介・ミニ講義・体験実習・
施設見学・相談会など

秋のオープンキャンパス

〈日時〉 11月2日（日） 京菓祭期間中

10：00～12：45

〈主な内容〉

大学紹介・在学生の話・卒業生の話・
施設見学・相談会など

第5回 京都薬科大学-京都府病院薬剤師会連携ワークショップ開催

臨床薬学教育研究センター長 教授 高山 明

2008年3月2日、第5回 京都薬科大学-京都府病院薬剤師会連携ワークショップを、愛学館 (A21講義室およびA22実習室)において開催致しました。

本ワークショップは、薬剤師卒後教育の一環としてエビデンスに基づいた適正な薬物治療を実践できる指導的薬剤師の育成、ならびに医療現場の薬剤師と大学教員との交流による相互理解の推進を目的としています。また、最大の特色は、講義のみに終始せず、演習・実習による技能習得を主体としているところにあります。このワークショップの運営は、本学から十数名の教員と京都府病院薬剤師会業務委員会委員（委員長 社会保険京都病院 杉井彦文薬剤部長）が連携して行い、2004年8月に第1回「On Demand科学論文：必要な情報を適切な論文から」というテーマでスタートして以来、今回までに計4回開催してきました。

近年、外来がん化学療法における制がん剤の調製や、高カロリー輸液の調製を薬剤部で行う施設が増加してまいりました。今回のワークショップは、本学情報処理教育研究センターの藤原講師を幹事として、これまでの参加者から要望が多かった「注射剤調剤の基本と実践」をテーマとして取り上げ、京都府下の病院等から54名の薬剤師に参加していただきました。第1部では「注射剤の調製について」といった演題で基礎から臨床に至るまでの内容を、続いて第2部では「ミキシング、本当にこれで良かったの？」と題して、本学・臨床薬学分野の高良講師が中心となり、無菌製剤を調製する際のアンプル、バイアル、シリンジなどの基礎的な取り扱いを実習しました。さらに、実習後は、参加者の方々が日頃感じている疑問・問題点について活発な意見交換も行われ、予定時間を少し超過しながらも盛会裏に終えることができました。

今回取り上げたテーマは、非常に関心の高い内容であったようで、主催者側の予想を大きく上回る多数の方々に事前登録をいただきました。しかしながら、大学側の施設・実習可能人員の都合から、最終的に54名の参加者に限定せざるをえない状況に至りました。ワークショップへの参加を楽しみにされていた先生方には、大変ご迷惑をおかけしたことをこの場を借りてお詫び申し上げます。なお、今回参加頂けなかった方も多数いることから、次回のワークショップも、今回同様「注射剤調剤」に関するテーマを取り上げる予定にしております。

最後になりましたが、本ワークショップは、1年に1回（可能であれば2回）のペースで今後も京都府病院薬剤師会と本学が連携しながら開催していく予定であります。関係各位におかれましては、これまで以上のご理解とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

<過去のワークショップ開催日とテーマ>

- 第1回 2004年8月8日
「On Demand科学論文：必要な情報を適切な論文から」
- 第2回 2005年3月6日
「On Demand TDM：状況に応じた薬物動態学理論の応用」
- 第3回 2005年12月4日
「消毒薬の選択基準—消毒法 これで万全!!」
- 第4回 2006年12月3日
「ジェネリック医薬品の代替調剤における薬剤師の役割」



講演の様子



参加者による実習の様子

京都薬科大学－京都府病院薬剤師会合同ワークショップ開催

臨床薬学教育研究センター長 教授 高山 明

京都薬科大学－京都府病院薬剤師会・教育研修委員会（委員長：京都通信病院薬剤部 夏目君幸先生）との合同ワークショップが本学情報処理教育研究センターK21演習室にて2008年2月17日に開催されました。

今回のテーマは「統計」に関するものを取りあげました。雑多な臨床データを適切な統計処理を行い、その中からエビデンスを求めていくことは今後の臨床研究に欠かせないものとなります。今回は“生物統計の基礎、薬物動態解析の基礎をパソコンで演習しながら学ぼう”をキャッチフレーズに、講師として京都大学薬学研究科 統合薬学フロンティア教育センター 矢野 義孝准教授をお迎えしましたところ、病院・大学等から約70名の参加者が集まり盛会裏に終了しました。本ワークショップは3部構成で行われ、第1部では矢野先生より「生物統計の基礎」と題する講演を、第2部、3部ではそれぞれ「パソコンによる問題演習」および「薬物動態解析TDM基礎編」という形式で、臨床データを基に参加者自らがパソコンを操作いたしました。今回の統計に関する講演・演習は非常に関心が高く、ワークショップ終了後のアンケート調査結果からも、統計に関する合同ワークショップが単発的にとどまらず、今後もこのようなワークショップの開催を切望するといった意見が多数を占めました。また多数の病院の先生方から参加希望の事前申し込みをいただきましたが、ひとり2台のパソコンを使用する関係上、参加者を限定せざるをえない状況に至りました。ワークショップへの参加を楽しみにされていた先生方には、大変ご迷惑をおかけしたことをこの場を借りてお詫び申し上げます。

最後になりましたが、本学情報処理教育研究センター 藤原講師、石川助教の両先生方には事前の準備・当日の参加者のサポートを含め、大変お世話になりました。深く感謝申し上げます。今後もこのような合同ワークショップを開催することにより、本学と病院・保険薬局との連携を更に深めていきたいと考えております。関係各位の先生方のご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本学情報処理教育研究センター 藤原講師、石川助教の両先生方には事前の準備・当日の参加者のサポートを含め、大変お世話になりました。深く感謝申し上げます。今後もこのような合同ワークショップを開催することにより、本学と病院・保険薬局との連携を更に深めていきたいと考えております。関係各位の先生方のご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。



第1部 講演の様子



第2部 参加者によるパソコン演習の様子

学校法人京都薬科大学平成19年度決算は、公認会計士、法人監事の監査を経て、5月23日開催の評議員会および理事会で審議され、承認されました。

平成19年度決算の概要は次のとおりです。

【資金収支計算書総括表】（表1）

学生納付金収入は、2千4百万円増の31億8千1百万円になりました。手数料収入は、入学志願者数が前年並みの2,630名となり、志願者の減少が下げ止まったことから、9千6百万円と予算額を上回りました。補助金は、経常費補助金下がったものの、情報処理教育研究センターのPC100台やサーバを整備したことへの補助金が1千7百万円あったため、予算額を上回り、5億3千4百万円となりました。資産運用収入は、低金利の金融環境のため、8千6百万円となりました。事業収入は、委託研究受託収入が予算額を2百万円上回り、5千3百万円となりました。

一方、資金支出では、人件費は、退職した教職員の補充が遅れたため、15億8千万円と予算額を大幅に下回りました。教育研究経費は、新2号館（仮称）の建設準備を早めるため、予算外の大学ホールを取壊したことやS棟への移転費が大きかったが、研究費の使途を研究用機器に振替執行したことおよび繰り越したことなどから、予算を7千5百万円下回り、9億5千8百万円となりました。施設関係支出では、臨床薬学教育研究センターの建設、S棟改修、情報処理教育研究センターの改修、南校地テニスコートの整備を実施し、13億2千7百万円と予算額を上回りました。設備関係支出では、臨床薬学教育研究センター・情報処理教育研究センター・RIセンターの機器備品等を整備し、3億4千6百万円と予算額を上回りました。資産運用支出は、新2号館（仮称）建設のための積立てを中心にはほぼ予算どおりの22億7千6百万円となりました。

以上により、次年度繰越支払資金は、30億3千2百万円と予算を上回りました。

【消費収支計算書総括表】（表2）

帰属収入は、41億6千1百万円となりました。また、基本金の組入れは、第2号・第3号基本金のみで、予算を11億1千6百万円下回り、3億3千万円となった結果、消費収入の部合計は、11億7千2百万円増の38億3千1百万円となりました。第1号基本金の組入額がなかった原因は、臨床薬学教育研究センター等の設備投資に対し、蓬莱セミナーハウスの売却および2号館、RIセンター、大学ホールの取壊し並びにS棟へのRIセンター、3分野（研究室）の移転に伴う教育研究用機器の除去等により、第1号基本金対象資

産の除去額が取得額を上回ったためです。

一方、支出においては、蓬莱セミナーハウスの売却および2号館、RIセンター、大学ホールの取壊しによる資産処分差額が10億2千2百万円増加し、消費支出の部合計は44億4千9百万円となりました。この結果、当年度消費支出超過額は予算を4億4千4百万円下回る6億1千8百万円となり、更に、セミナーハウス事業廃止に伴い8億2千7百万円の基本金取崩しを行ったことから翌年度に繰越す消費収支差額は1億4千5百万円の収入超過となっています。

これは、学校会計には基本金という科目があり、資産の除去を行った場合当該資産の減価償却の累計額だけ消費収支差額が収入超過に振れるという学校会計特有の会計構造によるものです。

また、当年度の消費収支決算においては、経営判断の指標となる帰属収支差額（帰属収入－消費支出合計）が2億8千8百万円支出超過となっていますが、資産処分による一過性のものであり、収支構造そのものが悪化したわけではありません。

【貸借対照表】（表3）

当年度は、16億7千4百万円の施設・設備関連投資を行いました。セミナーハウス売却、学舎等の取壊し及び減価償却による簿価の減少額が取得額を上回り、有形固定資産は2億3千3百万円減少しました。その他の固定資産は、国債満期償還金のうち5億円を施設関係支出に充当するため支払資金に繰り入れたことから1億2千7百万円減少しています。また、流動資産も3千1百万円減少した結果、資産の部合計は3億9千2百万円の減少となっています。総資産の減少ははじめてのことです。

負債の部合計は1億4百万円減少しましたが、退職給与引当金、前受金、期末未払金、預り金がそれぞれ減少したもので借入金はありません。

基本金の部は、事業廃止により第1号基本金を8億2千7百万円取崩しています。第2号基本金には組入れ計画に基づく3億円と運用収入2千3百万円を、第3号基本金には京薬51会特別寄付金及び運用収入計6百万円をそれぞれ組入れています。

消費収支差額の部は、当年度収支は支出超過でしたが、基本金の取崩しにより1億4千5百万円の収入超過になっています。

表1 資金収支計算書（総括表）

平成19年4月1日 ～ 平成20年3月31日 （単位:千円）

収入の部				支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異	科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,157,000	3,181,715	△ 24,175	人件費支出	1,719,000	1,580,445	138,554
手数料収入	87,100	96,350	△ 9,250	教育研究経費支出	1,033,900	958,066	75,833
寄付金収入	51,000	47,135	3,864	管理経費支出	223,900	210,374	13,525
補助金収入	522,800	534,374	△ 11,574	施設関係支出	1,312,400	1,327,609	△ 15,209
資産運用収入	81,500	86,711	△ 5,211	設備関係支出	331,500	346,722	△ 15,222
資産売却収入	2,000,000	2,165,300	△ 165,300	資産運用支出	2,277,900	2,276,086	1,813
事業収入	51,100	53,505	△ 2,405	その他の支出	497,900	517,363	△ 19,463
雑収入	135,000	153,417	△ 18,417	予備費	20,000		20,000
前受金収入	716,500	685,160	31,340	資金支出調整勘定	△ 106,800	△ 132,076	25,276
その他の収入	901,500	884,881	16,618	次年度繰越支払資金	2,563,400	3,032,505	△ 469,105
資金収入調整勘定	△ 717,200	△ 745,918	28,718				
前年度繰越支払資金	2,886,800	2,974,465	△ 87,665				
収入の部合計	9,873,100	10,117,099	△ 243,999	支出の部合計	9,873,100	10,117,099	△ 243,999

表2 消費収支計算書（総括表）

平成19年4月1日 ～ 平成20年3月31日 （単位:千円）

収入の部				支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異	科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	3,157,000	3,181,715	△ 24,175	人件費	1,690,000	1,535,814	154,185
手数料	87,100	96,350	△ 9,250	教育研究経費	1,569,900	1,469,178	100,721
寄付金	71,000	55,759	15,240	管理経費	292,900	273,151	19,748
補助金	522,800	534,374	△ 11,574	資産処分差額	149,000	1,171,563	△ 1,022,563
資産運用収入	81,500	86,711	△ 5,211	予備費	20,000		20,000
事業収入	51,100	53,505	△ 2,405	消費支出の部合計	3,721,800	4,449,707	△ 727,907
雑収入	135,000	153,417	△ 18,417				
				当年度消費収支差額	△ 1,063,100	△ 618,104	
帰属収入合計	4,105,500	4,161,833	△ 56,333	前年度繰越消費収支差額	△ 81,200	△ 63,290	
基本金組入額合計	△ 1,446,800	△ 330,230	△ 1,116,569	基本金取崩額	0	827,106	
消費収入の部合計	2,658,700	3,831,603	△ 1,172,903	翌年度繰越消費収支差額	△ 1,144,300	145,711	

表3 貸借対照表（総括表）

平成20年3月31日現在 （単位:千円）

資産の部				負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減	科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	22,729,402	23,090,110	△ 360,708	固定負債	1,017,822	1,062,453	△ 44,631
有形固定資産	11,389,080	11,622,676	△ 233,595	流動負債	779,057	838,950	△ 59,893
その他の固定資産	11,340,321	11,467,434	△ 127,113	負債の部合計	1,796,879	1,901,404	△ 104,524
流動資産	3,103,374	3,135,063	△ 31,689	基本金の部			
現金預金	3,032,505	2,974,465	58,039	科 目	本年度末	前年度末	増 減
その他の流動資産	70,868	160,598	△ 89,729	第1号基本金	18,067,423	18,894,529	△ 827,106
				第2号基本金	4,582,323	4,258,544	323,778
				第3号基本金	1,012,439	1,005,987	6,452
				第4号基本金	228,000	228,000	0
				基本金の部合計	23,890,185	24,387,061	△ 496,875
				消費収支差額の部			
				科 目	本年度末	前年度末	増 減
				翌年度繰越消費収入超過額	145,711	0	145,711
				翌年度繰越消費支出超過額	0	63,290	63,290
				消費収支差額の部合計	145,711	△ 63,290	209,002
資産の部合計	25,832,776	26,225,174	△ 392,398	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	25,832,776	26,225,174	△ 392,398

(注)減価償却の累計額の合計額 6,453,043千円

表1、表2、表3とも単位未満切捨て

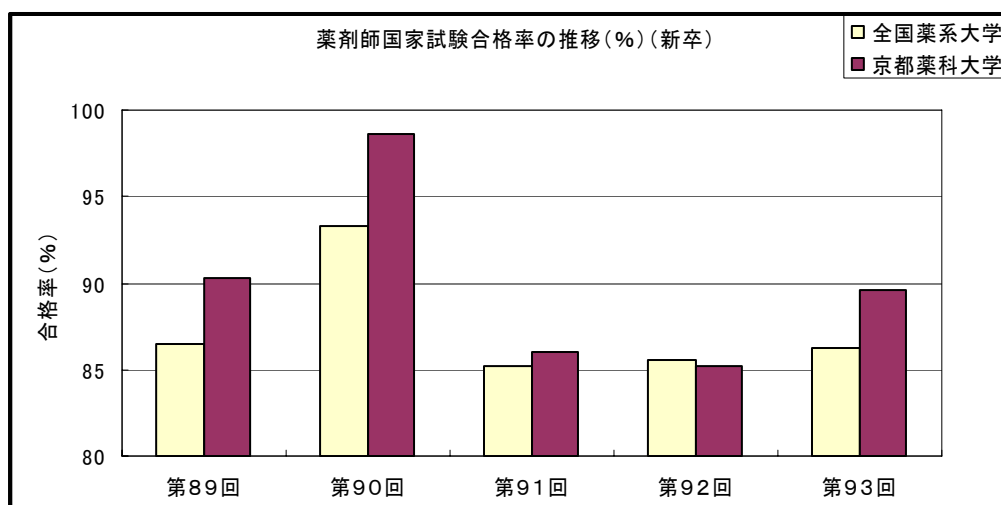
第93回薬剤師国家試験の結果と平成20年度の対策について

薬学教育研究センター長

本学の第93回薬剤師国家試験成績は、科目別では全て全国平均を上回りましたが、順位*は全国薬系大学50校中24位でした。平成19年度4年次生387名中、国家試験不合格者は36名、卒業延期者は41名でした。6月には全4年次生に、「2009年度版 ひとりで学べる薬剤師国家試験 問題と詳解」を配布しますので、この本を使って直ぐに国家試験勉強を始めて下さい。また、卒業実習も10月末には完全に終了します。また、薬学演習対象者**は6月4日から薬学教育研究センターで勉強を開始します。今年の薬学演習は試験だけでなく、講義への出席についても厳しく対応することで勉強の意欲を高め成績を上げる作戦を取ります。本学の成績が余り良くない原因のひとつは勉強のスタートが遅いことですので、できるだけ早く国家試験関連科目の勉強を開始し、3月の国家試験に臨んでください。健闘を期待しています。

*新卒合格率の順位

**3年次生までの専門教科の平均点で選別



平成20年度薬剤師国家試験対策日程

今年度の薬剤師国家試験対策(薬学特別演習、実力試験等)は、下記の日程で行う予定です。授業時間割、変更点などについては5月29日のガイダンスで説明済み。

平成20年度 国家試験対策カレンダー (案)

		前 期			後 期						
		6月	7月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
薬学特 別演 習	講義					薬学特別演習講義 (10/6～12/10) (2 コマ/日 (一部3コマ/日) 、計71コマ)				国試直前補講 (2/12～2/19) (4コマ/日、計24コマ)	
	試験		薬学特別演習 特別試験 (7/10, 11)		薬学特別演習 特別再試験 (9/1, 2) 実力試験Ⅰ (9/18, 19)	実力試験Ⅱ (10/23, 24) 特別実習終了(10月31日)	実力試験Ⅲ (11/20, 21)	実力試験Ⅳ (12/18, 19)	薬学特別演習正規試験 (1/8, 9)	国試直前模擬試験 (未定) 薬学特別演習再試験 (2/5, 6)	薬剤師国家試験 (3/7, 8の予定?)
薬学演 習	講義	補習講義Ⅰ (6/4～ 6/27) (2コマ/日 計36コマ) (1コマ70分)	補習講義Ⅱ (7/29～ 9/26) (4コマ/日 計44コマ) (1コマ70分)			演 習 * (6/4～1/31)					
		特別実習終了(6月3日)									

◆ *薬学演習は成績下位98名を対象とし、6/4~1/31の期間、薬学教育研究センターにおいて教育指導を行う。

◆ 薬学演習の成績評価は、補習講義への出席と試験(実力試験Ⅰ、実力試験Ⅱ)及び演習への出席等で評価する。

平成20年度 科学研究費補助金採択状況

学長 西野 武志

研究資金には毎年大学から支給される研究費のほか、国から助成される科学研究費（私学助成金を含む）、財団から助成される研究費、企業からの寄付金や受託研究費などがあります。国からの研究費は文部科学省をはじめ厚生労働省、経済産業省などから助成されていますが、いずれも厳しい審査の結果、採択されます。採択率はほぼ20%台といわれています。最も金額の大きいのが文部科学省の「科学研究費補助金」（略して科研費と呼んでいます）です。科研費の募集枠は金額によって分類されていて、個人で申請するものや複数の研究者で申請するものがあります。

この表には代表者のみ記載されていて、分担者として他の大学の先生と共同研究をされている場合は含まれていません。

また、一人の研究者があまり多くの枠に申請できないように制限も設けてあり、3件程度が限度です。

今年は全部で53件申請して、23件[採択率43.3%、総額65,325千円（但し、新規申請採択率20.8%）]が採択されました。[特別研究員奨励費は除く。若手研究（S）、若手研究（スタートアップ）については、申請中です。] 昨年度より、40,050千円減少していますが、主原因は13名の継続研究課題が終了した事とその他5名の研究者が転出した為です。

平成20年度 科学研究費補助金配当一覧表

研究種目	研究代表者	分野名	研究課題	交付予定額 (千円)	新規・継続等
基盤研究(A)	木曾 良明	薬品化学	プロテアーゼの分子認識に基づく難病治療薬のデザインと医薬化学研究	11,960	継続
基盤研究(B)	小暮 健太郎	薬品物理化学	糖尿病遺伝子治療を目指した非侵襲的な皮内遺伝子送達システムの開発	11,440	新規
基盤研究(C)	平山 恵津子	学生実習支援センター	筋芽細胞の分化に関与する新規微小管結合蛋白質の特性	1,300	継続
基盤研究(C)	木村 徹	薬品化学	膜透過性改善を目指したHTLV-1 プロテアーゼ阻害剤の合成研究	910	継続
基盤研究(C)	植村 元一	薬化学	面不斉の軸不斉への転写反応	1,560	継続
基盤研究(C)	吉川 雅之	生薬学	薬食同源の視点から香辛料食品を素材とした生活習慣病の予防、治療成分の開拓	2,080	継続
基盤研究(C)	長澤 一樹	衛生化学	脳神経系細胞における無刺激状態及びストレス負荷時P2X7受容体活性制御機構の解明	2,210	継続
基盤研究(C)	小原 幸	臨床薬理学	オートファジー性心筋細胞死の病態生理学的意義の検討、及び治療への応用	1,950	継続
基盤研究(C)	梶本 哲也	薬品製造学	環境に優しい「無臭ベンゼンチオール」をグリコシル化反応に利用する糖鎖合成法の開発	2,470	他機関へ転出
基盤研究(C)	秋葉 聡	病態生化学	メタボリックシンドロームの進展要因となるHDLの産生抑制と肝脂肪蓄積の発現機構	1,820	新規
基盤研究(C)	竹内 孝治	薬物治療学	胃・十二指腸重炭酸イオン分泌における局所性調節に関する研究	2,860	新規
基盤研究(C)	加藤 伸一	薬物治療学	非ステロイド性抗炎症薬による小腸障害における腸管マクロファージの役割に関する研究	1,560	新規
基盤研究(C)	安井 裕之	代謝分析学	肥満抑制および改善作用を有する亜鉛含有医薬品の開発	1,950	新規
若手研究(B)	岡 真優子	病態生化学	低酸素で誘導されるマクロファージへの分化と活性化	1,690	継続
若手研究(B)	日高 興士	薬品化学	分子モデリングに基づく疑似対称型酵素阻害剤の分子設計	1,950	継続
若手研究(B)	奥野 貴士	薬品物理化学	バクテリアの分裂位置制御システムの解明	2,860	新規
若手研究(B)	河井 伸之	薬化学	連続した四級不斉炭素を有する天然物の効率的合成法の開発	2,340	新規
若手研究(B)	辻本 雅之	臨床薬学	腎不全患者における薬物体内動態擾乱因子の探索と薬物適正使用法の確立	2,340	新規
若手研究(B)	鳥羽 裕恵	臨床薬理学	メタボリックシンドローム治療におけるアンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬の有用性の検討	1,690	新規
若手研究(B)	勝見 英正	薬剤学	NO消去機能を賦与した活性酸素消去薬のDDS開発と敗血症性ショック治療への応用	3,120	新規
若手研究(B)	高田 和幸	病態生理学	神経障害部位特異的な薬物送達方法の開発	2,210	新規
萌芽研究	山本 昌	薬剤学	膜透過ペプチドを用いた化学修飾によるカルシトニンの消化管吸収改善	1,300	継続
若手研究 (スタートアップ)	濱 進	薬品物理化学	低酸素状態の乳癌特異的抗体を用いた高感度液体診断法および遺伝子治療法の開発	1,755	他機関より転入

学生用図書の購入について

2008年度の学生用図書前期分を次のとおりに購入いたしましたので、ご利用下さい。

CBT対策と演習有機化学	薬学教育研究会 / 廣川書店
ソロモンの新有機化学 第9版	T. W. Graham Solomons, Craig B. Fryhle [著] / 廣川書店
医学・薬学・生命科学を学ぶ人のための統計学入門	杉本典夫[著] / プレアデス出版
赤外・近赤外分光法の臨床医学への応用	矢野一行[著]、若松英男[著] / 真興交易(株)医書出版部
知っておきたい臨床検査値	日本薬学会[編] / 東京化学同人
チーム医療	土田明彦、畠崎榮、明石貴雄[編著] / 保健同人社
ストレスの科学と健康	二木鋭雄[編著] / 共立出版
生物学 第2版	石川統編、守隆夫ほか[著] / 東京化学同人
ナノ素材の毒性・健康・環境問題	Challa S.S.R. Kumar [編]、小林剛訳註 / エヌ・ティー・エス
環境危機はつくり話か	山崎清[著] / 緑風出版
造血幹細胞	小澤敬也[編著] / 中外医学社
マウス表現型解析	Virginia E. Papaioannou, Richard R. Behringer [著] / メディカル・サイエンス・インターナショナル
薬剤師のための臨床検査の知識	池田千恵子[著] / じほう
図説分子病態学 4版	一瀬白帝、鈴木宏治[編著] / 中外医学社
内科学	杉本恒明、矢崎義雄総[編集] / 朝倉書店
分子薬物動態学	杉山雄一[著] / 南山堂
はじめての薬物速度論	加藤基浩[著] / 南山堂
実践処方例とその解説	田中一彦ほか[編著] / じほう
くすりの地図帳	伊賀立二、小瀧一、澤田康文[監修] / 講談社
がん診療レジデントマニュアル	国立がんセンター内科レジデント[編] / 医学書院
からだの自然治癒力をひきだす食事と手当て	大森一慧[著] / ソレイユ出版
身体運動の機能解剖	Clem W. Thompson, R.T. Floyd[著] / 医道の日本社
電磁気・波動・熱	吉田貞史ほか[執筆] / 実教出版
入門はじめての分散分析と多重比較	石村貞夫、石村光資郎[著] / 東京図書
人間の尊厳と生命倫理・生命法	ホセ・ヨンパルト、秋葉悦子[共著] / 成文堂
Excelで物理化学の解法がわかる本	吉村忠与志[著] / 秀和システム
医療放射線防護の常識・非常識	大野和子、栗井一夫[編著] / インナービジョン

上記図書は全86件100冊中の抜粋である

書名リストは、図書館ホームページ (<http://libopac.kyoto-phu.ac.jp>) 学内電子掲示板からのリンクも利用できます。

図書館開館日程

7月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

8月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

9月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

太字が休館日です。なお、7/28～8/8および9/16の開館時間は9:00～17:00となります。
臨時に休館する事がありますので、図書館掲示板で確認して下さい。

2007年度ベストリーダー

2007年4月1日から2008年3月31日までの本学図書館資料貸出し件数の多い順です。

<専門図書編>

1位)	新有機化学・スタディガイド	T. W. Graham Solomons, Craig B. Fryhle, Robert G. Johnson [著] 花房昭静, 池田正澄, 上西潤一[監訳] / 廣川書店
2位)	ソロモンの新有機化学 第7版 上巻	T. W. Graham Solomons, Craig B. Fryhle [著] 花房昭静, 池田正澄, 上西潤一[監訳] / 廣川書店
3位)	薬学のための無機化学	桜井弘[編著] / 化学同人
4位)	ソロモンの新有機化学 第7版 下巻	T. W. Graham Solomons, Craig B. Fryhle [著] 花房昭静, 池田正澄, 上西潤一[監訳] / 廣川書店
5位)	医療薬学 1 (薬剤師国家試験対策) 第12版	日本医薬アカデミー[編] / 日本医薬アカデミー
6位)	医療薬学 1 (薬剤師国家試験対策) 第11版	日本医薬アカデミー[編] / 日本医薬アカデミー
7位)	衛生薬学 (薬剤師国家試験対策) 第11版	日本医薬アカデミー[編] / 日本医薬アカデミー
8位)	医療薬学 2 (薬剤師国家試験対策) 第11版	日本医薬アカデミー[編] / 日本医薬アカデミー
9位)	基礎薬学 1 (薬剤師国家試験対策) 第11版	日本医薬アカデミー[編] / 日本医薬アカデミー
10位)	基礎薬学 2 (薬剤師国家試験対策) 第11版	日本医薬アカデミー[編] / 日本医薬アカデミー

<就職関係編>

1位)	超速マスター!新面接スーパー攻略 [2008年版]	渡邊剛[著]/高橋書店
2位)	最新最強の作文・小論文 [2008年版]	成美堂出版編集部[編] / 成美堂出版
3位)	公務員試験必ず合格適性検査・面接・論作文 [2007年版]	成美堂出版編集部[編] / 成美堂出版
4位)	自己分析でわかる最強の就職自己アピール術 [2008年版]	佐藤浩信[著] / 新星出版社
5位)	就職面接必勝ガイド：内定獲得!：完全突破116のポイント徹底紹介! [2007年版]	福沢恵子[著] / 成美堂出版

2008年度KPUnews編集委員は下記の皆さんにご協力をお願いすることとなりました。

<委員長>

秋澤 雅男 (准教授)

<委員 (教員) >

高山 明 (教 授)

北出 達也 (教 授)

桑形 広司 (准教授)

藤原 洋一 (講 師)

長谷井友尋 (助 教)

鳥羽 裕恵 (助 教)

<委員 (事務職員) >

村澤 悟 (事務局長)

山下 豊彦 (入試課長)

井本 富美代 (進路支援課)

<委員 (学生) >

石畑 雅大 (M2)

平良 勇祐 (3年次)

野村 竜平 (2年次)

2009年度 学部入学試験概要

2009年度の学部入学試験は、下記のとおり実施します。

受験生や高校生向「大学案内」「データブック」の資料を入試課に用意しておりますので、お近くの受験生、高校生の方々にご案内下さい。

1. 入学定員・募集人員

学 部	学 科	入 学 定 員
薬学部	薬学科	360名

	特 別 選 抜 推 薦 入 学		一 般 選 抜		
	指定校制	一般公募制	一般A方式 (センター前期)	一般B方式 (一般入試)	一般C方式 (センター後期)
募集人員	62名	83名	30名	180名	5名
出願期間	2008年10月23日(木) ～ 2008年11月4日(火) 必着		2009年1月5日(月) ～ 2009年1月16日(金) 当日消印有効	2009年1月5日(月) ～ 2009年1月26日(月) 当日消印有効	2009年2月23日(月) ～ 2009年3月7日(土) 当日消印有効
試 験 日	2008年11月10日(月)	2008年11月15日(土)	2009年1月17日(土) 2009年1月18日(日) 個別試験はなし	2009年2月3日(火)	2009年1月17日(土) 2009年1月18日(日) 個別試験はなし
合格発表日	2008年11月21日(金)		2009年2月12日(木)	2009年2月11日(祝・水)	2009年3月14日(土)

2. 検査項目等

区 分	推薦入学(指定校制)	区分 教科	一般A方式(センター前期)	配点
項 目	面接および調査書を基に総合的に判定します。	数 学	「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」	200
		外国語	「英語」(リスニングの成績は利用しない)	200
		国 語	「国語」(近代以降の文章のみ利用する)	100
		理 科	「化学Ⅰ」(必須)、 「物理Ⅰ」、「生物Ⅰ」から1科目(選択)※	200
		※「物理Ⅰ」と「生物Ⅰ」の2科目を受験した場合はどちらか高得点の科目を合否判定に使用します。		
区分 項目	推薦入学(一般公募制)	区分 教科	一般B方式(一般入試)	配点
適性検査	英語と化学に関して薬学を修めるための適性を審査する Ⅰ：英語(英語Ⅰ・英語Ⅱ・リーディング) Ⅱ：化学(化学Ⅰ)	数 学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B(数列、ベクトル)	200
		外国語	英語(英語Ⅰ、英語Ⅱ、リーディング、ライティング)	200
		理 科	「化学Ⅰ」・「化学Ⅱ」(「生活と物質」あるいは「生命と物質」を出題する場合はともに出題し、どちらかを選択させる)	200
	面接と調査書等を加えて総合的に合格者を決定します。 ただし、一定基準に達しない科目があれば、不合格になることがあります。	区分 教科	一般C方式(センター後期)	配点
		数 学	「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」	200
		外国語	「英語」(リスニングの成績は利用しない)	200
		理 科	「化学Ⅰ」	200

2009年度大学院薬学専攻博士前期課程・臨床薬学専攻修士課程入学選考の概要

	一 般 入 試	他大学生特別入試	推 薦 入 試	社会人入試	備 考
募集人員	薬学専攻 62名 臨床薬学専攻*1 20名 (他大学生特別・推薦・ 社会人入学者を含む)	若干名	各分野薬学専攻1名 以上3名以内、臨床 薬学専攻1名または 2名 ただし、合計 4名以内とする	若干名	*1:臨床薬学専攻は 必修の病院等実務 研修を履修する際 に薬剤師資格を要 する
分野 入学定員	8名 + 2名 薬学専攻 臨床薬学専攻 (第1～第4志望を記入)	一般入試の別枠 各分野原則1名 (第1～第3志望を記入)	一般入試の内枠 各分野4名以内 (第1志望を記入)	一般入試の別枠 各分野1名 (第1～第3志望を記入)	
出願期間	2008年7月18日(金) ～ 2008年7月25日(金)		2008年6月20日(金) ～ 2008年6月27日(金)	2008年7月18日(金) ～ 2008年7月25日(金)	
試 験	2008年8月25日(月)				
合格発表	2008年8月29日(金) 午後予定				

受 賞

第81回日本薬理学会年会
年間優秀発表賞受賞

演題名：脳虚血モデルラットにおけるDJ-1の神経
保護作用

演者：○柳沢 大治郎、北村 佳久、高田 和幸、
谷口 隆之、遠山 育夫、平 敬宏、有賀 寛芳



2008年3月17日～
19日に第81回日本
薬理学会年会が横
浜（パシフィコ横
浜）で開催され、
本学生命薬科学系
病態生理学分野
（指導教員：谷口
教授、北村 准教
授）の柳沢大治郎
さん（博士後期課
程3年）が発表した

研究内容が年会優秀発表賞を受賞しました。本研究
は本学、滋賀医大、山梨大、北海道大との共同研究
として行われ、培養細胞や動物モデルおよびMRIを用
いたイメージング解析により、家族性パーキンソン
病PARK7原因遺伝子であるDJ-1の神経保護作用と脳梗
塞治療への応用について解析した内容が評価されま
した。

難病克服をめざした分子統合創薬科学研究
成果発表会 開催

2008年1月25日～26日にかけて、本学21世紀COEプ
ログラム「統合創薬の開拓」、本学創薬科学フロン
ティア研究センター、本学オープンリサーチセン
ターが主催する標記の学会が、本学愛学館において
開催されました。今年の成果発表会は、石浦章一教
授（東京大学）、佐治英郎教授（京都大学）、林 良雄教
授（東京薬科大学）を招待講演者としてお迎えし、学
内19分野ならびに21世紀COEプログラム・プロテオーム
支援室から19題の口頭発表、45題のポスター発表
が行なわれました。学外からの参加者も含み、昨年
を大きく上回る300名以上が集う活発な討論会となり
ました。



第2回 Collaboration Meeting on Gastrointestinal Pharmacologyに参加して 病態薬科学系 薬物治療学分野 村嶋 祐己子 (2008年3月修士課程修了)

韓国の首都ソウルにある延世（ヨンセイ）大学で2008年2月12日に第2回Collaboration Meeting on Gastrointestinal Pharmacologyが行われました。私の所属する薬物治療学分野と延世大学食物栄養学教室の姉妹教室同士で行われるこのmeetingは、それぞれの研究室の研究成果について議論し、互いを高めあうだけではなく、学生に英語による発表の機会を与える場にもなっています。第1回は今年の冬に本学で開催され、延世大学の金教授をはじめ、たくさんの学生が遥々韓国から足を運んでくださいました。今年は延世大学で行われ、竹内教授、加藤准教授と院生4人が11日から13日の3日間韓国に滞在することになりました。

出発の朝、テレビをつけると韓国の国宝第1号である南大門が焼けたというニュースが流れており、今回の旅に少し不安を感じながら日本を飛び立つことになりました。機内で発表原稿のチェックを始めた私に「ペンを貸してください」と隣の席の男性が話しかけてきました。彼は私の父と同世代であろうと思われる韓国人で、韓国に着くまでの2時間、その男性と話をすることになりました。たいていの日本語はご存知で、ほとんど日本語での会話となりました。彼の娘さんは日本に留学中で、日本に来たのは今回で5回目だとおっしゃっていました。たった5回の来日でこんなにも日本語が話せるようになるのかと驚かされただけではなく、彼は日本の歴史にも精通しており、私が京都に住んでいる事を伝えると「京都と言えば平安時代だな」と返答され、さらなる衝撃を受けました。私は日本で生まれ育ち、小さな頃から日本の歴史について学習してきたはずですが、日本の文化や歴史を十分に語ることができません。また今回、韓国に行くにあたり韓国という国、そして韓国と日本の関係について何も学んでこなかった事に恥ずかしさを覚えました。自分の国の文化や歴史を理解し、また相手国についても知る事は、異国の地を訪れ、異国の人とコミュニケーションをとる上で必須であると感じました。

今回のmeetingの会場となった延世大学があるソウルは2005年の統計によると世界で4番目に人口の多い都市で、韓国国民の1/4がソウルに住んでいます。首都一極集中が進んでおり、ソウルは東京とよく似ていると言われています。ソウルの代表的な繁華街である明洞（ミョンドン）は、たくさんの人が行き交い、日本にもあるショップから韓国らしい露店まで多種多様なお店が軒を並べていて、街の様子も東京と似たものがありました。また、日本の植民地であったことから、店で働く年配の方が日本語を話せたり、日本語由来の単語が残っていたりします。ソ

ウルの冬はシベリアからの寒波のために気温が氷点下になることもあります。雪が積もることはそれほど多くなく、滞在中も雪が降ることはありませんでしたが、刺すような寒さを感じました。



発表中の著者

meetingでの発表当日は、初めての英語による口頭発表であったため早めに起床し、発表練習を済ませてからmeeting会場に向かいました。延世大学

の正門は日本でもほとんど目にする機会のない豪壮な構えで、敷地も非常に広いため大学内であることを忘れてしまいそうな程で、学内の移動は車で行われました。10時からmeetingが始まり、午前中は金教授や竹内教授など錚々たるメンバーの発表が行われ、活発な討論が繰り広げられました。そんな様子に圧倒されつつ、私も研究成果を発表しました。発表は練習した甲斐もあり、満足のいくものとなりました。しかし、ディスカッションでは英語が聞き取れず、また、なかなか単語が出てこず、悪戦苦闘し、日ごろの勉強不足を痛感しました。発表を終えてから、あの質問にはどのような表現を使ってどのように答えればよかったか、さらに今後の課題など、自分自身で振り返ることができました。大変実りあるmeetingに参加できたことを心から嬉しく思います。



参加者とともに

ランチタイム、コーヒーブレイク、夜の親睦会などでは、延世大学の学生と会話する機会が多々ありました。彼らの大半は英語、特に英会話に堪能で、

なかなか自分から話しかけられないでいる私とは違い、積極的にコミュニケーションをとってきました。韓国では1997年から小学校での英語教育が導入され、最近では英語の授業が英語で行われており、日本とは違い「会話教育」を中心に授業が進められているため、韓国の学生は英会話に堪能だそうです。私は、電子辞書を片手に苦戦しながらも会話が成立することや様々な表現を覚えていくことに楽しさを感じるようになりました。また、英語を読み書きできるようになることと、話せるようになることは違うことであると実感するとともに、英語に対する向上心が芽生えました。

日本を飛び立つ時に感じていた不安とは裏腹に、今回のmeetingに参加したことで、発表やたくさんの人とのコミュニケーションから多くのことを学ぶことができました。このような機会を与えて下さいました竹内教授や大学関係者の皆様に深謝いたします。

ク ラ ブ だ よ り

ESS部

私たちESS部は火曜日と木曜日の昼休みにT22講義室で元気に活動しています。

また西日本医歯薬学生ESS連盟にも所属しており、京大・阪大・神大・府立医大などの医歯薬ESSとの交流を盛んに行っています。

夏のスピーチ大会や秋のディベート大会では毎年多くの部員が参加し、部活動をよりいっそう盛り上げています。

<今年度の活動実績と今後の活動予定>

- 5月 春Joint Discussion (京都大学にて)
北山Discussion (工繊大にて)
- 8/9～8/12 夏JEMA (大阪医科大学にて 競技大会)
(本学ESS部がスピーチ大会主管)
- 10月 北山Discussion (府立医大にて)
ハロウィンパーティ (府立医大にて)
- 11月 Freshman Debate
- 12月 クリスマス会

その他ESS部についての詳細は下記のホームページをご覧ください。

<http://kpuess.michikusa.jp/>

ユーベルコール部

年間行事

- 4月 新歓コンサート
- 6月 京都合唱祭
- 8月 夏合宿
- 11月 定期演奏会
- 12月 クリスマス会
- 3月 春合宿

活動場所

6号館622講義室

活動時間

- 月～金曜日 12:40～13:10
- 木曜日 17:00～19:00

今年の第45回定期演奏会はOBも参加する記念定期演奏会になっております

お 知 ら せ

2008年度「京薬祭」の開催に向けて

2008年11月1日(土)から3日(祝・月)まで開催されます京薬祭の成功に向けて、すでに実行委員会が活動を開始しております。

現在、実行委員長を中心に、スタッフが互いに知恵を出し合い、より有意義な学園祭にするため検討を重ねております。学生行事としての京薬祭が盛況となるよう、皆様の温かいご支援をお願い致します。

- 実行委員長 3年次生 平良 勇祐(バレーボール部)
- 副実行委員長 3年次生 吉藤 佑介(サッカー部)
- 文化部長 3年次生 久保 美和(軽音楽部)
- 書記長 3年次生 田上 将弥(サイクリング部)
- 会計部長 3年次生 平位 由佳(バレーボール部)
- 庶務部長 2年次生 野村 竜平
(バスケットボール部)

他70名

1年次生が入学され早4ヵ月が経ち、私たち実行委員も、11月初旬の京薬祭の成功にむけ各々の与えられた仕事に取り組んでいます。

今年は新館建築等の工事の為、例年使用していた場所が、利用できないといったことはありますが、今まで使っていなかった場所等を利用することで、今までとは違う新しい京薬祭になることと思います。

学内学外を問わず、皆さんに楽しんでいただけるような、企画を用意してお待ちしていますので是非、足をお運び下さいますよう、実行委員一同心からお待ちしております。

役 員

就任

理事長 田村 正昭
(任期2008年5月30日～2011年5月29日)

人 事

任命

2008. 4. 1付

学長		西野 武志
副学長	教 授	野出 學
学生実習支援センター長	教 授	北出 達也

2008. 5. 1付

動物研究センター長	教 授	高田 寛治
-----------	-----	-------

昇任

2008. 4. 1付

創薬科学系機能分子化学分野	教 授	山下 正行
病態薬科学系病態生化学分野	教 授	秋葉 聡
教務部教務課	課 長	高野 江里
事務局庶務課	課長補佐	近藤 伸子
事務局施設課	主 査	星野 展宏
事務局施設課	主 査	土田 花美
進路支援部進路支援課	主 査	井本富美代
教務部入試課	主 事	山口 貴

採用

2008. 1. 1付

事務局庶務課	主 事	栗田 晃
--------	-----	------

2008. 4. 1付

教務部教務課	主 事	神田 悟
事務局庶務課	事務員	奥村 亮

配置換

2008. 4. 1付

学長付(兼務 学生実習支援センター)	助 教	大槻 雅子 (学長企画室)
学生実習支援センター	助 教	河野 享子 (遺伝子工学分野)
学生実習支援センター	助 教	平山恵津子 (学長付)

退職

2008. 3. 31付

事務局庶務課	契約職員	藤田 純子
--------	------	-------

名称変更

2008. 4. 1付

医療薬科学系病院薬学分野	→医療薬科学系臨床薬学分野
学長企画室	→事務局 企画・広報室

受 章

春の叙勲

瑞宝中綬章	名誉教授 藤井 達三氏
瑞宝小綬章	名誉教授 今原 廣次氏

本年春の叙勲において、長年にわたる教育研究のご功績により、本学名誉教授 藤井達三氏は瑞宝中綬章を、同 今原廣次氏は瑞宝小綬章を受章されました。皆様とともに叙勲の栄誉を心からお祝い申し上げます。

京薬会だより

※2008年度代議員総会

4月19日(土)、全国から支部代議員、年次代議員をはじめ、本部役員、支部長、来賓、会員表彰者など173名が出席して開催されました。

滝野哲 理事長、西野武志 学長に続いて、川端五兵衛 前滋賀県近江八幡市長(昭和35年卒)のご挨拶がありました。

名誉会員表彰では、西尾敏 氏(旭日双光賞)、大原大 氏(旭日双光賞)、澤田乙吉 氏(旭日双光賞)、仮家公夫 教授(日本薬学会教育賞)、芳原準男 教授(日本病院薬剤師会病院薬学賞)の計5名の会員が表彰されました。

本学卒業(昭和45年)の児玉孝 氏は、本年4月より日本薬剤師会会長に就任され、本総会でもご挨拶をいただきました。

平成14年10月より本年4月までの5年7ヶ月間、京薬会会長を務められた八崎輝義 氏(昭和30年卒)は退任され、今総会において太田俊作 本学名誉教授(昭和40年卒)が会長に選出され、就任されました。

※卒後教育講座

例年好評の卒後教育講座は、今年5月11日(日)から9月7日(日)にかけて、合計4回開催されています。今年も500名を超える受講者があり、愛学館・愛学ホールと2階の講義室を連携してマルチメディア講義を開催しています。

※京薬会誌の配布

年二回発行しています京薬会誌を、昨年度より学生相談員の先生から皆さんに学業成績の手渡しの際に配っていただいています。

京薬会誌は皆さんと、大学および同窓生を繋ぐ役割を果たしています。今度の配布は、秋です。是非一読ください。

また、京薬会誌に掲載を希望される卒業生への連絡事項、随筆、挿絵などがありましたらぜひ投稿ください。京薬会広報委員会で検討の上、できるだけ掲載します。受付は愛学館7階、京薬会室です。お気軽にお立ち寄り下さい。